

芦屋市公共施設等総合管理計画【概要版】

計画の背景と目的

なぜこの計画が必要なのか

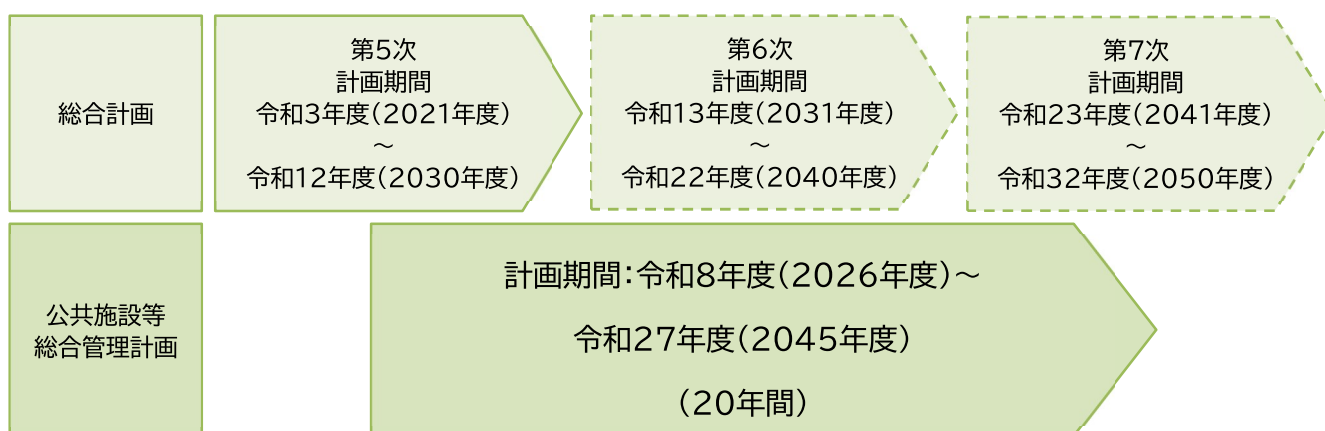
本市の公共施設の多くは、高度経済成長期(昭和40～50年代)や阪神・淡路大震災後の復興事業で整備されました。これらの施設は築30年以上が経過し、今後、大規模改修や建替えが集中します。しかし、人口減少や少子高齢化により税収の減少と社会保障費の増加が見込まれ、すべての施設を現在と同じ規模で維持することは困難な状況です。

計画の目的

市民と情報を共有しながら、限られた財源の中で、施設の長寿命化や効率的な運営、適正な配置を行い、将来にわたって安心して利用できる公共施設を持続的に提供することを目的としています。

計画の位置づけと期間

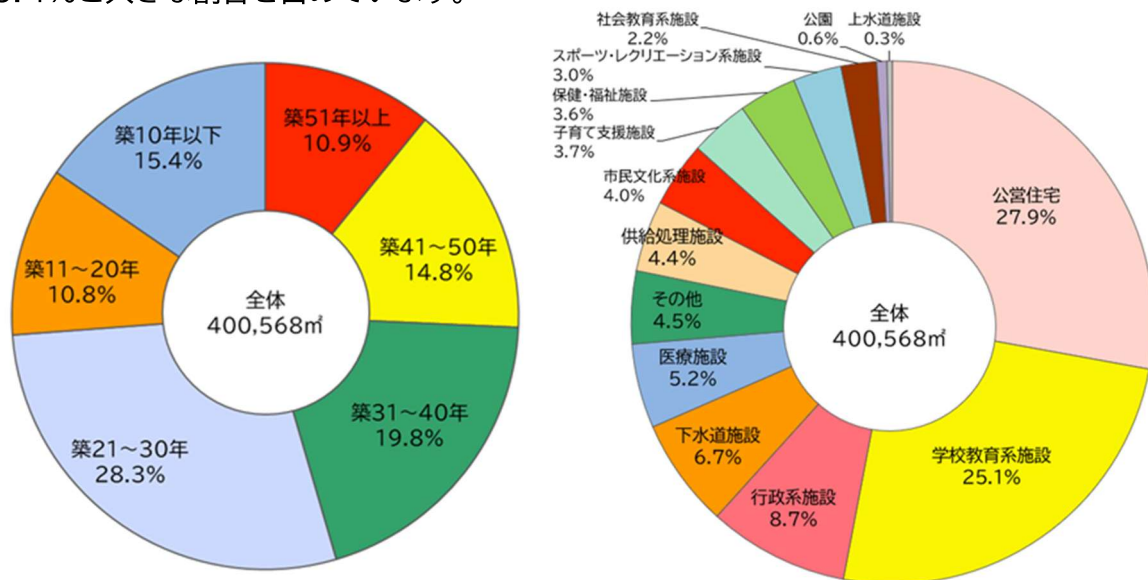
本計画は、市の最上位計画である「第5次総合計画」に基づく課題別計画であり、今後の公共施設等の基本方針を示すものです。計画期間は令和8年度(2026年度)から令和27年度(2045年度)までの20年間とし、社会情勢の変化に応じて適宜見直しを行います。



現状と課題

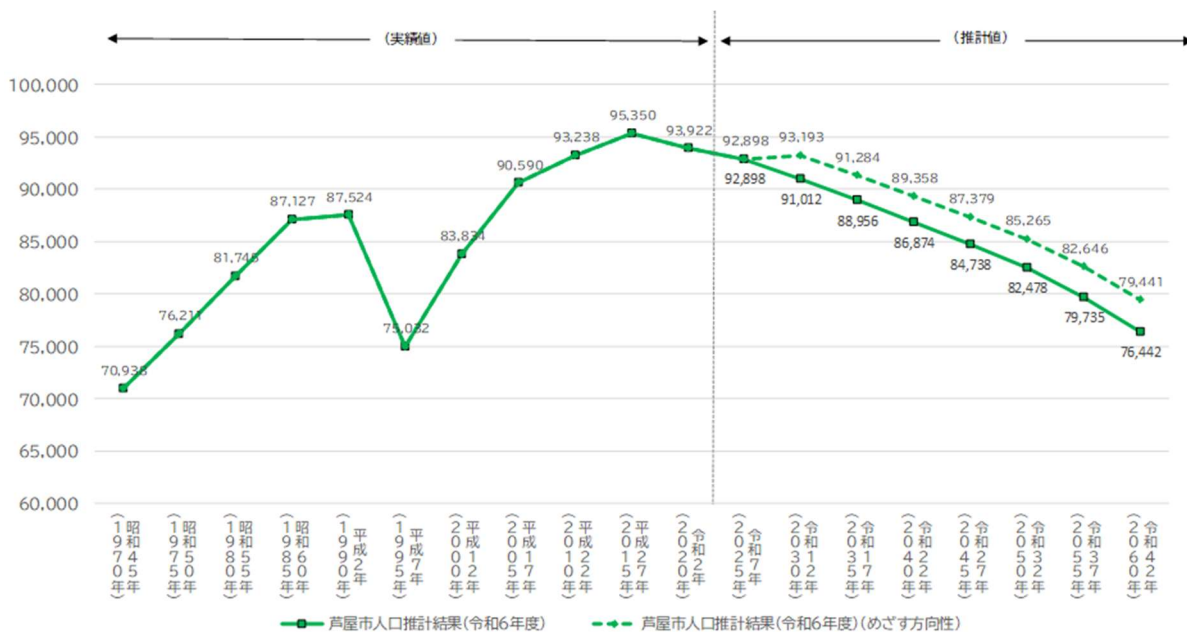
公共施設の現状

本市が保有する公共施設は228施設、延床面積は約40万㎡です。このうち築31年以上の施設が45.5%を占め、10年後には73.8%に達します。施設類型別では、公営住宅が27.9%、学校教育施設が25.1%と大きな割合を占めています。



人口の見通し

本市の人口は平成27年(2015年)の95,350人をピークに減少を続け、令和42年(2060年)には約76,400人(約19%減少)と見込まれます。特に、年少人口と生産年齢人口が大きく減少し、高齢者人口の割合が増加します。

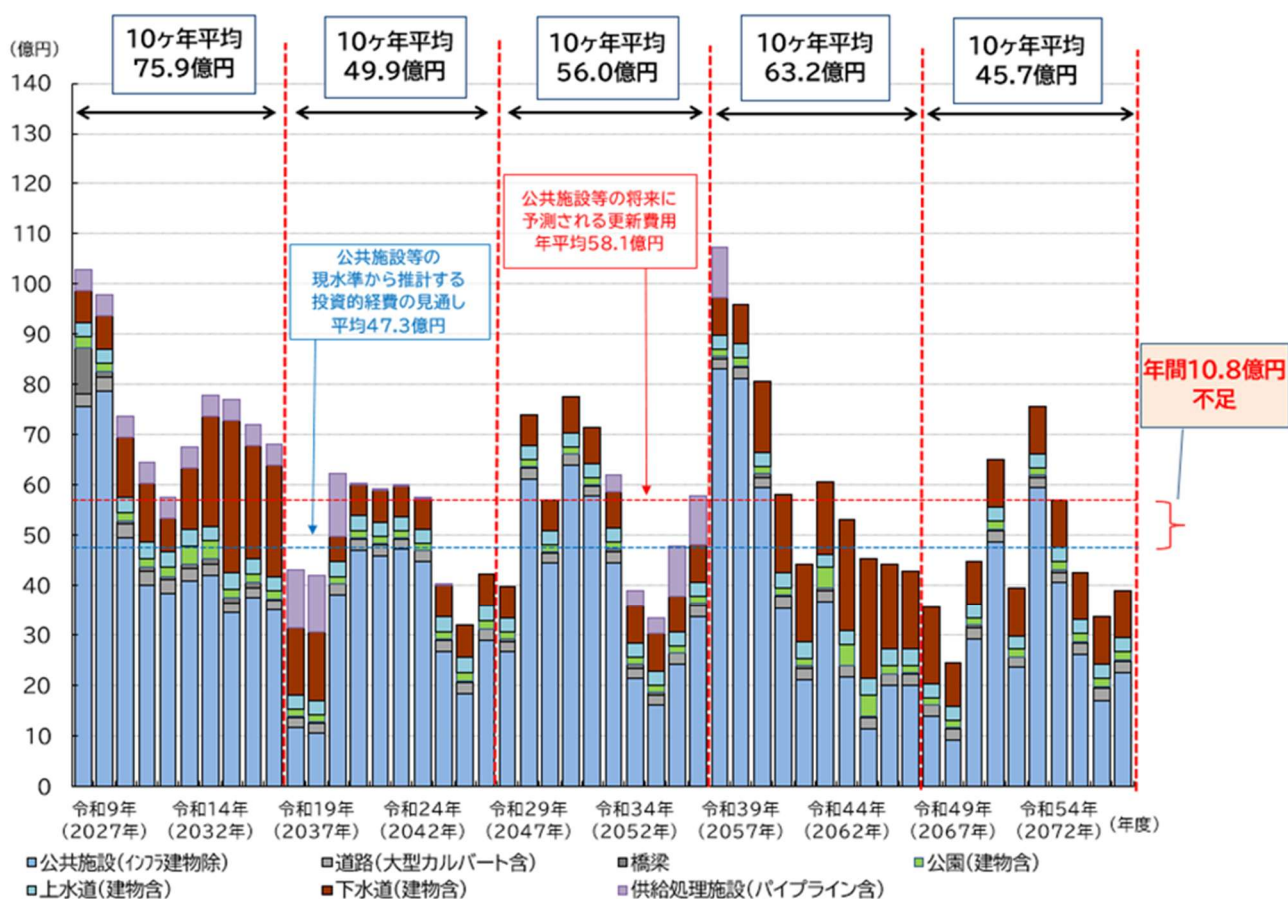


財政の見通し

人口減少により市税収入の減少が見込まれる一方、社会保障費は増加します。このため、公共施設の整備にかけられる予算は限られます。

将来更新費用の試算

今後50年間で公共施設の更新に必要な費用は、年平均約58億円と試算されます。一方、現在の投資可能額は年平均約47億円であり、年間約11億円の不足が見込まれます。このギャップを解消するため、施設の長寿命化や総量縮減などの取組が必要です。



基本方針と具体的な取組

理念

「今ある施設を、資源として捉え、時代やニーズの変化に対応したサービスを継続的に提供しながら将来に引き継ぐ」

3つの基本方針

① 施設全体の方向性を定め、引き続き使用する施設は長く大切に使う

- ・ 適切な点検・診断を行い、計画的な修繕により長寿命化を図ります
- ・ 大規模改修時に長寿命化に向けた対策を実施します

② 効率的かつ効果的な施設運営

- ・ 包括管理委託やICTを活用し、サービス向上や維持管理コストを削減します
- ・ 受益者負担の適正な見直しを行います

③ 市民ニーズに対応した使いやすい施設

- ・ 時代の変化に対応し、市民に利用される施設とします
- ・ 施設の情報を積極的に公開し、市民と共に考えます

数値目標

平成27年(2015年)時点の市民一人あたりの延床面積4.2㎡を上限とし、人口動向や施設の老朽度、利用状況を踏まえ、統合、転用、複合化、縮小、廃止などの適正化を図り、施設を将来にわたって有効活用する視点を持ちながら、社会情勢の変化や市民ニーズに対応した公共施設となるよう機能面や施設配置等の検討を行い、必要な見直しを進めます。

公共施設の最適化構想と今後の進め方

公共施設の最適化構想(令和8年度～27年度)

今後20年間で更新時期を迎える施設を対象に、プロジェクト方針の下、6つのプロジェクトを設定し、施設の利用圏域、更新時期、規模、位置、用途、利用実態等を踏まえた再配置により総量縮減を図ります。各プロジェクトの具体的なプランを検討するにあたっては、市民ワークショップや事業者向けサウンディング等でニーズを把握し、エリアマネジメントの視点を活かしながら、「縮充」の観点で、より使いやすく使い続けられる施設づくりに取り組みます。

プロジェクト方針

中心拠点施設(JR 芦屋駅・阪神芦屋駅周辺)

交通利便性の高い駅周辺に、広域的に利用される公共性の高い施設を再配置します。

地区拠点施設(小学校等)

世代を超えた交流が生まれ、災害時には避難所として機能する施設とします。

その他プロジェクト方針

- ・学校及び就学前施設
- ・文化施設
- ・図書館機能
- ・市営住宅等
- ・地区集会所
- ・その他の施設

6つのプロジェクト

01

JR 芦屋駅南地区再開発に伴う
周辺施設の再配置

02

本庁舎の更新時期にあわせた
阪神芦屋駅周辺施設の再配置

03

学校園施設やその他施設の更新時期に
あわせた再配置

04

シーサイドタウンのまちづくりと
学校園施設等の再配置

05

文化施設等の更新時期にあわせた再配置

06

その他の施設

市民と共に考える公共施設マネジメント

市民ワークショップや対話集会を通じて、多くの市民の皆さまに公共施設の現状を理解いただき、一緒に未来の公共施設のあり方を考えています。こうした取組は、構想の見直し後も、適宜、行うものとなります。



芦屋市公共施設等総合管理計画【概要版】

平成29年(2017年)3月

令和8年(2026年)3月改訂

芦屋市企画部市長公室 DX 行革推進課